

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 7 月 18 日 (2019.7.18)

【公表番号】特表 2018-525657 (P2018-525657A)

【公表日】平成 30 年 9 月 6 日 (2018.9.6)

【年通号数】公開・登録公報 2018-034

【出願番号】特願 2017-565152 (P2017-565152)

【国際特許分類】

G 0 9 F 13/04 (2006.01)

G 0 9 F 13/00 (2006.01)

F 2 1 S 2/00 (2016.01)

F 2 1 Y 101/00 (2016.01)

F 2 1 Y 103/00 (2016.01)

F 2 1 Y 115/10 (2016.01)

【 F I 】

G 0 9 F 13/04 N

G 0 9 F 13/04 D

G 0 9 F 13/00 W

F 2 1 S 2/00 4 8 1

F 2 1 Y 101:00 1 0 0

F 2 1 Y 103:00

F 2 1 Y 115:10

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 6 月 13 日 (2019.6.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前面を通して見ることができるディスプレイであって、

少なくとも第 1 の出力モード及び第 2 の出力モードを有し、前記第 1 のモードが、40 度を超える半値全幅を含む第 1 の輝度分布を有し、前記第 2 のモードが、40 度以下の半値全幅を含む第 2 の輝度分布を有する、切換可能なバックライトと、

前記ディスプレイの前記前面として配設され、少なくとも 35 % のヘイズを有する前面フィルムとを備えるディスプレイ。

【請求項 2】

前記第 2 の輝度分布が、前記ディスプレイに対する法線を中心とする、請求項 1 に記載のディスプレイ。

【請求項 3】

意図される視野外の周囲光におけるディスプレイからの情報の可読性を低減させる方法であって、

少なくとも第 1 の出力モード及び第 2 の出力モードを有し、前記第 1 のモードが、40 度を超える半値全幅を含む第 1 の輝度分布を有し、前記第 2 のモードが、40 度以下の半値全幅を含み、前記ディスプレイの法線を中心とする第 2 の輝度分布を有する、切換可能なバックライトを含むディスプレイを提供することと、

前記切換可能なバックライトが前記第 2 の出力モードにあるとき、周囲光において 40

度より斜めの角度で前記ディスプレイを見ている観察者にとって、ディスプレイの可視性を低減させるほど十分に高いヘイズ値を有する前面フィルムを前記ディスプレイ上に提供することを含む方法。

【請求項 4】

前面を通して見ることができるディスプレイであって、

少なくとも第 1 の出力モード及び第 2 の出力モードを有し、前記第 1 の出力モードが、第 1 のピーク強度及び前記第 1 のピーク強度を中心とする第 1 の視野円錐を含む第 1 の輝度分布を有し、前記第 2 の出力モードが、第 2 のピーク強度及び前記第 2 のピーク強度を中心とする第 2 の視野円錐を含む第 2 の輝度分布を有する、切換可能なバックライトと、

前記ディスプレイの前記前面として配設され、少なくとも 50 % のヘイズを有する前面フィルムとを備えるディスプレイ。

【請求項 5】

前面を通して見ることができるディスプレイであって、

少なくとも第 1 の出力モード及び第 2 の出力モードを有し、前記第 1 の出力モードが、第 1 のピーク強度及び前記第 1 のピーク強度を中心とする第 1 の視野円錐を含む第 1 の輝度分布を有し、前記第 2 の出力モードが、第 2 のピーク強度及び前記第 2 のピーク強度を中心とする第 2 の視野円錐を含む第 2 の輝度分布を有する、切換可能なバックライトと、

前記ディスプレイの前記前面として配設され、500ルクスの照度を有する周囲光下で、前記バックライトが前記第 2 の出力モードにあるとき、前記第 2 の視野円錐の外側から前記ディスプレイを見ている観察者が、前記切換可能なバックライトがオンであるか、それともオフであるかを区別することができないほど十分に高いヘイズを有する前面フィルムとを備えるディスプレイ。